

要 旨

台湾における中国人観光客に関する研究

－中台関係の影響分析を中心として－

董 婉

本論のテーマである「台湾における中国人観光客に関する研究」を論じるために、本論第二章において台湾の概要、第三章において台湾経済と中国貿易の依存度について検討した。その理由は、まず台湾の地理、歴史、政治と経済との関係について論じることで、台湾が直面する独自の政治経済状況を検討する必要があるからである。それにより台湾を訪問する中国人観光客の訪問理由を明らかにし、中台関係の変遷が中国観光市場依存と非常に結びついていることを分析することができるからである。また、中国と台湾の経済関係は、貿易や投資の開放から始まり、それが中国人観光客の台湾への訪問開放につながったため、第三章において中台の貿易関係について考察した。

現在の中国と台湾の関係はよく「兩岸関係」と言われている。具体的にはそれは中国と台湾の歴史問題から生じ、現在政治や外交方面にも波及している状態となっている。しかもこの「兩岸関係」はただの政治問題ではなく、経済にも大きな影響を与えている。

中台の経済関係はまず主に貿易関係を中心に拡大した。1979年に兩岸の貿易は主として香港を経由して間接貿易が開始した。中国が「三通四流」政策、台湾側が「三不通政策」をそれぞれ実施した。当時台湾から大陸向けの輸出金額は0.22億ドル、大陸からの輸入額は0.56億ドル、台湾側が0.34億ドルの貿易赤字を計上した。当時、兩岸間接貿易が始まったころ、台湾が大陸から輸入した主な製品は漢方薬であり、台湾から大陸向けの主な輸出製品は、日用消費材であった。1990年まで台湾と大陸との間接貿易は40億300万ドルに達し、台湾の輸出総額に占める大陸向けの割合は4.9%までに増加した。対外投資構造が急速に中国に向けになることで、対中依存度が高まった。輸出シェアから見ると、中国は台湾の最大の輸出相手国となった。したがって、現在の台湾経済の発展は中国との経済関係が非常に大きな影響を与えるようになったと言える。台湾経済は中国なくしては存立できないと言われている。

したがって、現在の台湾にとって、中国に対する経済依存度の高まりによって、国際的な行動が不利な状況に陥った。この依存度の不均衡により、中台の経済関係は「非対称型総合経済依存関係」という特徴が著しくなってきた。しかも、台湾の対中依存度のほうが中国の対台依存度よりはるかに大きい。この構造が形成されることにより、中国における政治的要因が経済活動にも大きな影響を与えていると指摘することができる。したがって、中国に対する警戒や不安などが生じてきた。なぜならば、中国市場への依存が深まるとともに、失業問題の深刻化、産業の空洞化、経済的独立性の喪失、株式市場の低迷などの問題が引き起こされる恐れがあるからだろう。

結果に中台間の貿易関係が深まるとともに、中国市場への参入にはメリットだけではなく、デメリットもあることが明らかになった。また兩岸の特殊な「政冷経熱」関係下における台湾経済の変遷を考察するとともに、台湾における中国人観光客の変遷、その実態を明らかにした。

一方、台湾の観光産業は、国際観光需要が年々増大し、多くの外貨が取得できる有望な産業である。陳水扁政権において、はじめて観光産業を台湾の国家発展計画の中に取り入れられた。国民党時代の台湾は中国との経済関係が緩和され、1987年11月に「探親」が解禁されて以来、台湾と中国大陸の交流が活発化した。台湾からの大陸訪問は、1989年の時点で50万人を超え、1990年は100万人を超えた。

そして、2014年に台湾を訪れた観光客は991万人にのぼり、成長率では26.7%と世界一となった。台湾交通部観光局によると、2015年はさらに6%の成長率となる、1050万人の来台を目標にしている。観光業が飛躍的に発展したおかげで、急速な経済発展も実現できた。2008年から2015年まで中国大陆からの訪台観光客数が33万人から418万人まで急増したが、同時に香港、マカオからの観光客も89万人増加した。他方、その他の地域からの訪台客数は84万人の増加でしかなく、その成長率は約4%にとどまった。

しかし、現在の民進党が政権をとり、蔡英文政権が発足して以降、中台関係がぎくしゃくするなかで中国大陆からの観光客が減っているとともに、台湾の観光業が停滞傾向を示すようになった。今後、台湾の他の産業にも大きな影響を与えると考えられる。

兩岸関係は政治的に不確定な面が残るため、特に民進党執政期において国民党と異なる政策を打ち出し、そのことで今後の台湾経済が長期的にどのように進むのかを展望した。台湾は中国市場参与のメリットを最大限に享受している。同時に発生するデメリットを最小限にとどめる方策についても考察した。

中台間の経済交流の推移から、台湾にとって中国大陆市場の重要性を明らかにした。そして、現状では台湾の対外投資が圧倒的に中国大陆市場に向けられているので、多くの貿易黒字が生み出され、その結果、対中依存度が強まった。また、大量の資本が中国市場に投じられ、このままでは台湾産業の空洞化が引き起こされる恐れがある。現在の台湾経済の繁栄は中国市場に依存する現状になったといえる。このままでは、台湾経済の自立性が損なわれ、今後の発展にも大きな懸念材料になるだろう。この状況を克服するための政策を一刻早く打ち出さなければならないと考える。

兩岸の特殊な「政冷経熱」関係下における台湾経済の歴史を踏まえながら、台湾における中国人観光客の変遷、その実態を分析し、今後台湾政府の政治方針の検討等を、今後の研究課題としたい。